

問題 I

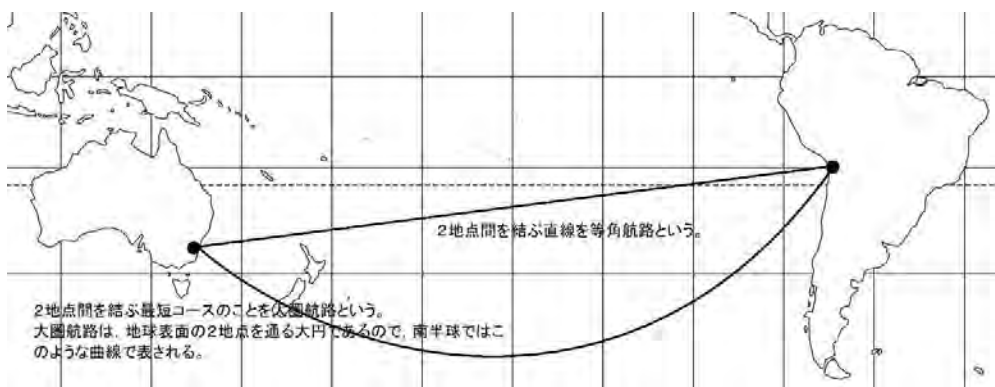
問 1

- (1) プトレマイオス
- (2) T O マップ
- (3) Cーメルカトル

図法の短所一高緯度ほど経線・緯線の間隔が拡大されることから高緯度地域の距離や面積も拡大され、任意の2地点を結ぶ直線が最短距離で表現されないこと。

- (4) Dー等角

大圏航路の説明



問 2

- (1) 人工衛星や航空機などに搭載した観測センサーで、物質によって反射、放射する電磁波の波長が違うという性質を用いて、植生、海洋、資源などを調査する技術や環境変動などの情報を取得する技術。
- (2) 赤道上空を地球の自転と同じ周期で回っているため、昼夜に関係なくリアルタイムで地球上の雲の状態を撮影することができること。
- (3) 赤道付近の暖かい海水を西に運ぶ貿易風が弱まった際に、暖かい海水が本来は海水温の低い南東太平洋に流れ込むことで、南アメリカのペルー沖から南東太平洋の赤道海域にかけての海面水温が平年よりも高まる現象。インドネシア付近では雲の発生が減少して晴天が続き、旱魃や森林火災などの災害が起こりやすくなる。
- (4) d-GNSS

アメリカ合衆国のものーGPS

問 3

- (1) 産業経済活動による人工熱の発生などにより、都心部が周辺より高温となる現象。
- (2) 工場や冷暖房、自動車からの排熱が増加すること、高層ビル群の存在で通風が遮断されること、熱を蓄える性質を持つアスファルトやコンクリートで舗装されて土の露出箇所が少ないことから熱が溜まりやすいこと、森林や水田のような気温を低減させる場所が少ないことなどによる。

問題Ⅱ

問1

アー穀物    イー水産物    ウーイモ類    エー肉類    オー乳製品

問2

国ー i

大土地所有制の名称ーファゼンダ

問3

(1) Aーc    Bーf    Cーg    Dーi    Eーb    Fーd

(2)



(3) 国土が乾燥しているモンゴルでは伝統的に遊牧生活を行っており、遊牧で飼育される家畜にはヒツジとヤギが多く、牛も比較的多いため、「赤い食べ物」であるこれらの家畜の肉と、「白い食べ物」である家畜から絞った乳で作られた乳製品が主な食料となっている。一方で、豚や鶏は遊牧に向かない家畜であるため、豚肉や鶏肉はほとんど食べられていない。

(4) トウモロコシの用途（3つ）

牛や豚などの家畜の飼料。

燃料用バイオエタノールの原料。

コーンスターチやコーン油などの原料。

第1位の国ー a    第2位の国ー e

問4

(1) センターピボット

(2) オガララ帯水層

(3) 灌漑用水を大量にくみ上げることによる地下水位の低下や枯渇、過剰な灌漑による土壌の塩性化や砂漠化の進行、農薬や肥料の大量使用による地下水の汚染などが問題になっている。

問5

(1) Xの国－f Yの国－h

(2)

Xの名称－エスチュアリー

Xの地形の発達

上流部に高峻な山地がなく広い平野の中を流れる河川では、河口部への土砂供給が少なく、沈水により低地に海水が入り込んで形成された。

(3)

Yの名称－フィヨルド

Yの地形の発達

山の斜面を流れ下った氷河の侵食によってできたU字谷に、沈水により海水が入り込んで形成された。

問題Ⅲ

問1 アーE イーB ウーD エーA オーC

問2

Lは石炭の産地で、古期造山帯に属する東部のグレートディヴァイディング山脈の周辺に分布している。Mは天然ガスで、海底や盆地などに広く分布している。Nは鉄鉱石で、主に先カンブリア時代に形成された安定陸塊に属する西部に分布している。

問3

カー北部 キーアボリジニ クー赤 ケーウルル

ユーグレートバリアリーフ サーサンゴ礁

問4

都市が多く分布する地域は、非乾燥地域である沿岸部の平野になっているところである。東部は温暖湿潤気候、南東部は西岸海洋性気候、南部や南西部は地中海性気候と、いずれも温帯の気候の地域である。これらの地域は気候が穏やかであることからイギリス人の入植が早くから行われ、植民地開発が進められ、農地開発や貿易の拠点などとして、都市が発達していった。

問5

都市Xは首都として新しく建設されたという経緯を持つキャンベラであり、アメリカ合衆国のワシントンD.C.、ブラジルのブラジリアも同様の経緯を持つ。キャンベラは首都機能だけでなく社会・文化的な国立施設も集積しており、シドニーとメルボルンとの間で首都の誘致をめぐる争いの結果として中間地点に建設された計画都市である。

問6

入植初期はイギリスからの移民が多かったが、19世紀後半のゴールドラッシュを契機に中国人労働者が大量に流入した。それに対する白人労働者の反発から移民制限政策を導入したことで、20世紀初頭は英語圏からの移民が多かった。戦後には経済復興と国防の観点から英語圏以外の移民も大量に受け入れ、南ヨーロッパからの移民が増加した。国際社会からの批判により1970年代に移民制限が撤廃されると、東ヨーロッパやアジアからの移民が増加し、アジア太平洋地域との結びつきを強めた近年はアジアからの移民が多い。